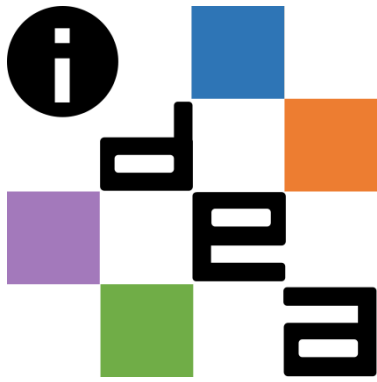


NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。

ニュースレター アイデア



2017

1月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



- | | | |
|---|---------|----------------|
| 2 | 二言三言 | おいまつ柿で地域を元気に |
| 4 | 団体紹介 | 花クラブ（花泉） |
| 5 | 地域紹介 | 一関 関が丘5民区（一関） |
| 6 | 企業紹介 | 麺工房いより（川崎） |
| 7 | センターの〇〇 | センター独自調査！悪魔祓い編 |

おいまつ柿で地域を元気に

対談者 老松柿援隊 組合長 小野寺 義成^{よしなり}さん、事務局 小野寺 英雄^{ひでお}さん
聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

昔の「おいまつ柿」を復活！ きっかけは地域の方の声

【小野寺】「おいまつ柿」を作り販売する活動を行っている老松柿援隊さんですが、活動を始めた経緯やきっかけ、どんな思いがあって活動しているのかをお聞きしていきたいと思います。まず、活動を始めたのはいつ頃からですか？

【義成さん】平成 19 年からですが、本格的に商品化に取り組み始めたのは今から 5 年前です。それまでは主に研修を行っていました。

【小野寺】なぜ老松で干し柿だったんですか？



(左) 組合長 小野寺 義成 さん
(右) 事務局 小野寺 英雄 さん

【義成さん】昔の人たちは自分達で作ったおいまつ柿を北海道に出荷していたんですよ。しかし、その時に米の値段が上がって開田ブームになり、「米を作ろう！」と畑にあった柿の木を伐採してしまったんです。でも柿の木を全て切ってしまったわけではなく、今でも藪などに結構残っているんです。

おいまつ柿は無農薬・自然乾燥で作るので、体に害のない健康食品なんですよ。地域にある休耕田を何かに活用させたいという想いもあり、私たちの先輩たちが昔作っていた柿を復活させようと思ったんです。

【小野寺】休ませている土地があるなら、おいまつ柿を復活させよう！と始めたんですね。

実際に、活動を始めるきっかけになるような出来事

はあったんですか？

【義成さん】私はもともと産直に野菜を出していましたが、ある時試しに生柿を出してみたんです。すると好評を頂きたくさんの生柿が売れました。そのうちにお客さんから「干し柿はないの？」という声をもらったので、せっかくだからやってみようかなと。



事務所の庭に干されている 1 万個の柿

【英雄さん】去年は 1 万 4 千個の柿を作ったんですが、天候が悪かったために商品にできたのは 4 千個でした。今ではおかげ様で県外からも毎年注文を受けるくらい人気を頂いてますので、注文を断るのに大変だったんですよ。

【小野寺】注文を受ける喜びはあっても、断る喜びはありませんからね。地域の産業を掘り起こし、始めるにあたって、収量が保てるほどだったのですか？

【英雄さん】実際に柿を育て始めてからは、平成 23 年に受託した市の地域おこし事業を使って接ぎ木をしたり肥料をまいたり、農業改良普及センターさんから剪定指導を受けたりして、今はだいぶ立派になりました。25 アールの土地を借りて、130 本くらいの柿の木を育てています。借りている場所は、昔、葉たばこを育てていた畑なので栄養のある土だし、傾斜地なので日当たりがよく水はけもいいんですよ。

【義成さん】古い木が残っていても思うように実をつけない木もあって、新しく接ぎ木をしてね。おいまつ

柿は、長柿を使うのだけど、長柿以外の柿も入っているから、だんだんと品種も統一していかないといけません。

残っていた柿の木は育ちすぎて背丈が高くてね。一番困るのは収穫です。傷をつけないよう、うっかり実を地面に落とさないよう丁寧に取らなければなりませんから、高いと作業が大変なので、段地に植栽することにしました。

課題は人手不足の解消と加工商品の研究

【小野寺】実際に活動していて一番苦労したことは何でしたか？

【義成さん】柿は地域の方から頂きましたが、それを干す場所がないことに困りましたね。最終的には旧JA老松支店の建物をお借りし、それから活動が本格的になりました。

【英雄さん】柿をもぐにしても、皮を剥くにしても結構労働力が要るんですね。



作業は柿援隊の会員 24 名で行っています

【小野寺】今は1万個作っているということですが、数を増やそうと思えば増やせるんですか？木になっているのはたくさんあるけど、収穫作業に限界があって取り残しているというような話をよそでは聞きますが。

【義成さん】増やせますが、そのためには人手が足りないんですね。期間内に工程をこなすために、その時期だけお手伝いして頂ける方がほしいですね。

【英雄さん】あとは、その期間内に収穫できなかったものや傷がついてしまったもの、そういうものは加工して別のかたちの商品にできないか研究しています。干し柿は秋冬限定ですが、通年で売れるような商品の開発に取り組んでいます。

周辺で起きた干し柿づくりの動き

【小野寺】実際に「おいまつ柿」を売り始めて、皆さ

んの反応はどうでしたか？

【義成さん】最初、近隣からは「本当に売れるのがや」と言われましたね。でも実際に商品が売れ始めると、辺りでも真似し始めてね（笑）ほったらかしにしていた柿の木の実を干し柿にして贈り物にし始めたり、今まで柿を頂いていた家でも「私の家でも干し柿を作ってみるかな」なんて言われたりしてね。

【小野寺】それはすごいですね！前まではやっていなかったのに、おいまつ柿の人気が出始めてからそういう動きがでてきたんですね。

【義成さん】それに、地元の中でも「おいまつ柿」を買って贈り物にする方が増えてきていますよ。東京の方からは「お茶会のお菓子にいいね」と言われました。

【小野寺】おいまつ柿を作っていくことによって、地域の人たちもおいまつ柿の価値に気づいていったんですね。



箱詰めされた「おいまつ柿」

12月15日から販売が開始されています

【小野寺】英雄さんは事務局を担当されてから、ここ3年間で大きな変化は感じられましたか？

【英雄さん】テレビや新聞など報道機関の方にはたくさん取材に来て頂いておりますので、これは簡単には辞められないなと思っています（笑）

【小野寺】マスコミの注目度もかなり高いんですね。

【義成さん】まず、私たちの会は儲けるためではなく少しでも地域が活性化すればという想いでやってますから。収入は自分の小遣いくらいにしてね。皆で集まって和気あいあいと話したり、情報交換するのがよいところなんです。

【英雄さん】女性の方がおにぎりやお味噌汁を作ってくれて、それを皆でご馳走になったりもするんです。

【義成さん】もう少し活動が軌道に乗って機械化ができれば、若い人も活動に混ざってくれるようになるかなと期待して皆で頑張っていますよ。

基本情報

【老松柿援隊】

住所：一関市花泉町老松

電話：090-2606-8808（小野寺英雄さん）

団体 紹介



「花クラブ」のみなさん

～基本情報～

- ◆事務局長：佐々木康博
- ◆連絡方法：毎週土曜日の練習の際に直接お越しください。
- ◇練習日時：毎週土曜日 朝6時～7時半
- ◇練習場所：永井小学校グラウンド（花泉町永井岫前148）

「野球」でつながる花泉の有事部隊

平均年齢56歳！惨敗は当たり前!?

10月のとある土曜日、千厩野球場にて0対17の5回コールド負けを喫した野球クラブがあります。何と声をかけようか悩んでいる私に「今日のは良い方だよ。36点取られたこともあるからね。2時間以内で終わっただけ優秀」と笑顔を見せてくれたのは「花クラブ」事務局長兼監督の佐々木さん。花クラブを立ち上げるための声がけをした当事者でもあります。

花クラブは花泉で唯一の40歳～60歳代を対象としたシニア軟式野球チーム。現在のメンバーは27人、その平均年齢は約56歳。この日の試合に出場したのは全員が50歳以上。対して相手はほぼ40歳代だったということで、惨敗も無理はありません。

「勝ち負けが問題じゃないんだよ。良い反省会ができるかが問題。今日は反省会に持ち込める良いプレーがあったからそれで充分」と佐々木さんは笑います。

‘人間的なつながり’を目指して

3年前に佐々木さんの呼びかけで発足した「花クラブ」。きっかけとなったのは東日本大震災でした。花泉は大きく7つの地域に分かれています。7つを横断するネットワークが身近になく、町内の他地域の情報がなかなか掴めなかったのだとか。そんな時に感じたのが「電話一本で動ける‘人間的なつながり’」の必要性。「みんな孤立してしまった。連絡できる相手がすぐに見つからない状況。普段から気楽な付き合いをしている人がいれば電話しやすいのに」そこで目をつけたのが野球でした。

花泉には地域を越えて40歳までが加入できるチームが1つありますが、その卒業後の受け皿がなく、野球を辞めてしまえば自然と付き合いも減っていくのが現状だったそうです。しかし、40歳以上の野球チーム

ができれば、野球を続けることができるだけでなく、地域を越えた横のつながりも持続させることができるのではないかと考えました。「いざという時には、形式ばった組織よりも、人間的な付き合いをしている人同士の方が動きやすいし声をかけやすい。あえて‘地域づくり活動’などと意識しない活動をしていた方が動けることもある」と、佐々木さんは語ります。実際、飲み会の席では野球以外のことも「やってみっぺし」という声があがると言います。

地域も職業も年代も越えて

「花クラブ」は毎週土曜日に永井小学校の校庭を借りて練習を行っています（参加人数が少ない時にはお休みする場合もあり）。普段の練習参加者は約10人。大会は年に5つあるそうですが、シニアのチームは数が少ないため「そのうち3つは即県大会なんだよ。だから練習来ないんだよね」と、笑う佐々木さん。

飲み会にしか参加しないメンバーもいると言いますが、「野球」だけが共通点であり、地域も職業も年齢もバラバラなメンバーが集まって話をするというだけでも充分有意義なこと。「うちは野球経験なくても入れます！勝ち負けは気にしていませんから」佐々木さんをはじめ、メンバーのみなさんの表情はやんちゃな少年そのもの。そこには確かに「人間的なつながり」がありました。シニアになっても大好きな野球を続けられる受け皿であり、有事の際の即戦力として、「花クラブ」の‘守備’に期待しています。

2失点に抑えた最終回(5回裏)。疲労感が漂う中、グラウンドには佐々木監督の愉快的声援が響いていました。



地域紹介



区長 瀧澤甫司さん

～基本情報～

- ◆区長：瀧澤甫司さん（1期2年目）
- ◆一ノ関駅から南東に約1kmの高台にある関が丘団地。4棟で最大96戸入居可能な県営アパートを擁し団地の最南端に位置する関が丘5民区には、246世帯564人が暮らしています。

「5区いいねー」と言われる多彩な取り組み

地域防災は顔なじみになることから

夏休み最初の週末、関が丘中央公園では子どもからお年寄りまで120人余りの地域住民が、七夕飾りを作ったり、流しそうめんや餅つきなどを楽しむ姿が見られました。これは新年会、運動会と並ぶ関が丘5民区（以下5区）3大事業の一つ「わいわいフェスティバル」での一コマ。「住民同士が顔なじみになることが、いざという時の防災・減災の第一歩」という考えで、民区の防災部を中心に、自主防災のエッセンスを取り入れながら住民同士の世代間交流を図っています。

今回は「このわいわいフェスティバルが5区の自慢」と語る区長の瀧澤さんにお話を伺いました。

目指すは「明るく元気で活発、きれいな街」

「明るく元気で活発な街、きれいな街」を目指す瀧澤さんですが、目標へ向けた様々な取り組みに対し「5区いいねー」という声が周囲から聞こえてきています。

例えば昨年市の花いっぱいコンクールで優秀賞を受賞した花壇活動では、草刈りに80人もの参加がありましたし、花壇の一部を利用して運動会後の芋の子会で使う芋の子や枝豆などを栽培する工夫も行っています。

また、ゴミ出しマナーが問題になるとゴミステーションへの貼り紙による意識啓発や、改善が進まない班の各戸に注意喚起とルール徹底を呼び掛ける文書を回覧した他、アパート管理人にも積極的に働きかけるなどしています。こうした粘り強い取り組みを継続した結果、徐々にマナーも改善されてきているとか。

さらに瀧澤さんの区長就任後、民区広報「ごみんくレター」（総務部で作成）の発行を開始。民区情報と併せ、民区のほのぼのとした話題も「ちょっといい話」という気持ちが温くなるトピックで紹介しています。

もう一つ忘れてはならない活動に「ふれあいサロン」

があります。瀧澤さんが「ボランティア精神溢れる」と形容する保健推進委員（5区の女性部長を兼任）を中心とした活動は、民区内外に口コミで広がり、次第に他の民区からも参加が増えてくるようになりました。

受動から能動へ

埼玉県出身で、企業誘致で一関へ来て以来、人生の半分以上を一関で過ごしているという瀧澤さん。「一関に限らず東北の人は受け身の人が多いのでは」と分析し、「民区に関しては、協力してくれる人もいてありがたいのだが、時に区長選出に難航するように、先頭に立ってやろうという人は少ない。公園の植木や土手の雑木の管理など行政の対応も、地域と行政の役割をその都度確認しながら問題提起しており、良くなってきているが、何か言われてからの動きになりがち。受動から能動へ、住民も行政も積極性が増してくるともっと良くなると思う」と、苦言の中に期待を込めます。

開発されてすでに40年以上経過した関が丘。瀧澤さんは「住宅団地特有の、住宅を建てた世代の一斉の高齢化と、それに伴う空き家や交通・買物弱者などの問題がすでに現実として現れ始めている」と課題を捉えながら、「区長になって広がった」という民区住民との繋がりと、支えてくれる役員達の力を頼りに「こうした高齢化社会に対する福祉活動にも取り組んでいけたら」と意欲を見せていました。

後日、関が丘コミセンには水墨画教室に参加する瀧澤さんの姿が。民区内外の舵取りとパイプ役として尽力する傍ら、園芸の技でシルバー人材センターでも活躍。多彩な趣味も持つ瀧澤さんの、公私に多忙な日々はまだ続きそうです。



「わいわいフェスティバル」の様子（流しそうめん）

企業紹介



店主
菅原 惣子 さん

～基本情報～

- ◆店 主：菅原 惣子さん
- ◆連絡先：〒029-0202
一関市川崎町薄衣字千石 217-2
- ◆電話：0191-43-4115
- ◆F A X：0191-43-4115

アットホームな雰囲気で安心安全な食の提供を続けたい

温もりのある工房をめざして

平成16年9月創業の麺工房いよりは、自家栽培蕎麦や野菜など素材そのものの味を大切にしているこだわりの店。「客層は、どちらかというと地元の方よりも県外の方が多んじゃないかしら？」と答えるのは、店主の菅原惣子さん。旧川崎村役場を退職後、家族の勧めもあり、麺工房いよりを開業しました。役場勤務時代から休耕地を利用した蕎麦栽培、有機農法（EM農法）による野菜栽培の他、蕎麦打ちを趣味としていた菅原さん。「もともと食に関心があってね、そういうことに関わる事をしてみたいと思ってはいたけれど、まさか、店を構えることができるとは予想していなかったのよ」と当時を振り返ります。

こだわるのは食材だけではありません。「ゆっくりくつろいで召し上がっていただけるような家庭的な居場所にしたい」と店主自らが店内の設計をしました。天井が高く、日の光が優しく照らす店内には、地元の建築家と相談を重ねたという国内産の太木を加工したテーブル席が3つ、奥門には10名程度が一度に利用できる個室が1つあり、国道284号線を行きかう車たちの騒音を忘れ、季節折々の田畑や山の様子を窓から眺めることができます。

また、使用している食器もほとんどが菅原さんの手作りで、「昔からの趣味（陶芸）を活かし、オープンに合わせて制作したんです」とのこと。一つ一つが手作りなので、色合いや形がさまざまですが、どれをとっても人の手で作られた温かみとおもてなしの心が伝わります。

地域とのつながりを考える

千厩方面から国道284号線を進むと、左手側の千石河川公園付近に麺工房いよりがあります。「地域の方から紹介していただいてね。見晴らしいいでしょ。こんなふうに地域のいい場所を見つけてくださったり、紹介してくださったり、本当にありがたいことですよ」

と語ります。菅原さんは、地元集落のつながりについて「昔ながらの行事で、御精進※ってあるんだけど、そういったことも伝統として受け継いでいますね。そこにも食が深く関わっていて、絶やさないことも大事だなと感じます。それから子どもが小さい頃から集落8軒ぐらいで集まっているクローバー会。ここは情報収集・交換の場で、こういった仲間たちがいるからこそ、地域でのつながりがより深くなるし幸せだなと感じます」と思いを語っていただきました。

※精進（しょうじん）とは、仏の教えによって、仏道修行に努めること。肉類などの美食を避けて、野菜・山菜・穀類などを中心にした粗食を食することも修行の一つ

一人ひとりに安心安全、丁寧な料理を

菅原さんは「やるからには一流の名人に指導をもらおう」と宮城県で蕎麦打ちの修業をしました。研修中にはボランティア活動として被災地や仮設住宅などを回り、打ち立ての蕎麦を提供したこともあるとか。現在、菅原さんはお一人で一日10～20人（平日平均）分の蕎麦を打つので、「地元の主婦パートさんの力添えもあって、運営できている」と感謝の言葉が溢れます。「一時期ね、ある情報誌にいよりを紹介して頂いたんだけど、それから急にお客さんが増えて。従業員といっても地元のお母さん方だし、すべて手作りですから。時間もかかるわけです。せっかく来ていただいたお客様お一人お一人に向き合うことができない時期があったんですよ。ああいった思いはできればしたくないですね」と寂しげに語ります。こだわりのある職人の菅原さんだからこそ、お客様へ100%のサービスをしていきたいという気持ちがこちら側にも伝わります。

最後に「どこでも聞くようだけれど、私は食に携わる者として、安心安全な食の提供を今後も継続していきたいです」と輝く笑顔で語っていただきました。



菅原さんが発案された揚げむすびも大人気！！
会食・懐石料理も承っていますが要予約。また、混雑時は少々お待ちいただく場合がございます。

センター独自調査！悪魔祓い編

センターの 〇〇！



スタッフ千葉家の御幣束 & お飾りセット
悪魔祓い用は真ん中

～今月の特集～

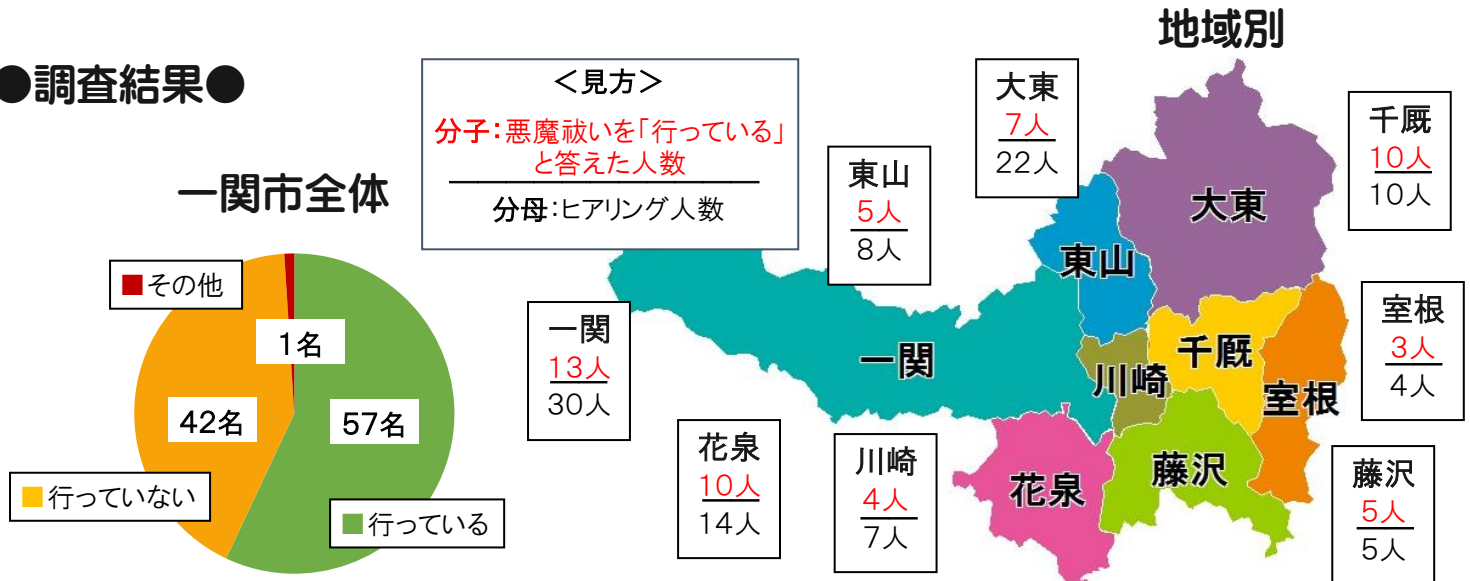
皆さんのお家では「悪魔祓い」を行いましたか？大晦日の夕刻、一年の悪を祓い新しい神様を迎え入れるための行事「悪魔祓い」。

一関では悪魔祓い文化が広く根付いていると聞きますが、実際はどれくらいの家庭で行われているのでしょうか？調査してみました。

今回の特集は、一関市内で悪魔祓いをしているかどうか、毎月スタッフが行っている定期訪問の訪問先を中心にお話を伺いました。ヒアリングは地域協働体エリアごとに1～5名の方に行いました。

今回の結果はあくまでも当センターの独自調査によるものですので、あらかじめご了承ください。

●調査結果●

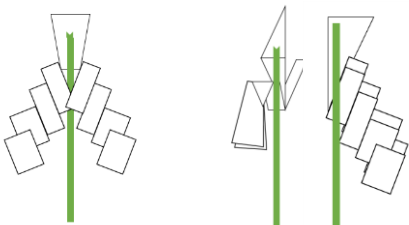


独自調査で100名の方にヒアリングした結果、上記円グラフの通り約6割近くの家で悪魔祓いが行われていることがわかりました。調査前、スタッフは「一関では悪魔祓いが広く一般的に行われているだろう」という予想をしておりましたが、実際は悪魔祓いを行っていない家が4割もあるということに驚きですし、「そもそも悪魔祓いを知らない」という回答も少なくありませんでした。地域別に見ると、藤沢と千厩ではヒアリングした方全員が悪魔祓いを行っていましたが、そのほか特定の地域性は見つかりませんでした。

そもそも悪魔祓いとは、一年の悪を祓い、新年の神様をお迎えするという行事で、年越しの夕刻に家長（年長男性の他、集落によっては子どもというところもあり）が身を清めたあと、片幣を振って「悪魔祓い、悪魔祓い（清めたまえ、祓いたまえ）」など唱えながら家中の部屋を練り歩き、悪が憑いた片幣を門口（丑寅や東南の方角にさすという集落もあり）に立てるという儀式です。

御幣束には、神棚用、一般用、悪魔祓い用、台所用など種類があるようで、形などもその地域（もしくは集落）の神社（宮司）や習わしによって違いがあるようです。また、戸々によっては、家長とその孫と一緒に祓いを行うことで、その風習を引き継いでいるというお話もありました。市外から嫁がれた方は「舅さんが『悪魔祓い、悪魔祓い』と唱えながら部屋を歩き回っていて最初はびっくりした」というエピソードも。さらには、「悪魔祓い後家族で記念写真を撮る」、「部屋を回るのはなく人を清める」というご家庭もあり、なかなか興味深い調査でした。まだまだ、面白い情報がありますので続きは当センターのブログでご紹介いたします。お楽しみに！！

●御幣束の種類●



一般的な御幣束

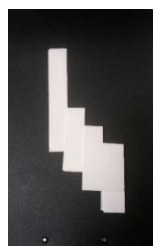
悪魔祓い用片幣
形は地域によって違いあり



一般的な御幣束



悪魔祓い用の片幣



しめ縄飾り用

こちらは、一関市千厩町の松澤神社よりご提供いただいた御幣束のお写真。この御幣束の真ん中に竹を差し込みます（左のイラスト参照）。こだわる方は、御幣束用に竹の皮（フク）を取ったものを使うとか。

おしらせ

一関

さくらなみき企画展 「いちのせきの3人展」

一関市在住の作家、オノデラ1世さん、菅原齊さん、高橋康一さんに視点をあて作品展を行ないます。様々な障がいを持ちながら創作活動に打ち込む3人の表情をご覧ください。美術館では、オリジナルブレンド「磐井橋の珈琲」をお楽しみ頂けます。

【期間】平成28年12月6日(火)

～平成29年1月29日(日)

【場所】さくらなみき自閉症美術館

【料金】入館料無料

【問合せ】0191-48-3622(場所と同じ)

一関

まちづくりコーディネーター 養成講座

地域づくり活動における基本的な考え方や進め方、知識を身につけて、まちづくりコーディネーターになろう！①まちづくりコーディネーター概論②話し合いの仕方③規約・事業計画と資金調達④情報発信のスキルの全4回講座です。

【期日】①終了②終了③終了

④平成29年1月14日(土)

【場所】なのはなプラザ4階 共同会議室

【参加料】2,000円(全4回分)

【問合せ】0191-26-6400(いちのせき市民活動センター)

一関

20代限定！恋活クッキング

皆で楽しく料理しながら、運命のお相手を見つけましょう！初めましての方同士でも、一緒にお料理することで自然と会話が生まれます。20代の独身男女を対象に各12名ずつ募集します。1月11日(水)までに申し込みください。

【日時】平成29年1月21日(土)10時～15時

【場所】なのはなプラザ3階 調理室・大会議室

【料金】男性1,000円 女性500円

【問合せ】0191-48-4677

(NPO法人ファンスポルト一関)

一関

岩手・一関 第十回全国わんもち大会

一関のもち文化をユニークに発信するわんもち大会。競技種目は団体戦(2人1組)と男女個人戦があり、5分間で食べた餅の個数を競います。大食い選手たちが繰り広げる熱い戦いを応援しよう！競技への参加者も募集しています。

【日時】平成29年2月5日(日)9時45分開会

【場所】なのはなプラザ2階

【料金】団体戦2,000円 男女個人戦1,000円

入場は無料です。

【問合せ】0191-26-6400(いちのせき市民活動センター)

藤沢

館ヶ森グルメファン ウォーキング

第8回館ヶ森風祭り2017の第2弾企画です。岩手サファリパークから館ヶ森アーク牧場の場内をトレッキングします。各ポイントで材料を入手して「館ヶ森高原豚まん」を作ろう！2mの大鍋で蒸かしたできたての豚まんをご堪能ください。1月20日(金)までにお申し込みください。

【日時】平成29年2月5日(日)9時受付開始

【場所】館ヶ森アーク牧場 受付

【参加費】大人2,000円、小学生以下1,200円

【問合せ】0191-63-5100(場所と同じ)

藤沢

第8回館ヶ森風まつり

第8回館ヶ森風祭り2017の第3弾企画です。写生大会、餅振る舞い、コンサート、モルモットレースの開催や、グルメメントもオープンします。パークの動物たちと一緒に、皆で楽しい一日を過ごしましょう！

【期日】平成29年2月12日(日)

【場所】岩手サファリパーク

【入場料】大人2,500円、小人1,500円、

シニア1,500円 ※岩手、青森、秋田県に

お住まいの方は2月28日まで半額になります。

【問合せ】0191-63-5660(場所と同じ)

一関

まちエネ大学

地域資源を活かした地域課題の解決につながる再エネ事業化を支援する人材育成プログラムです。全5回の講座で、どなたでもご参加できます。第4回目は、「事業化におけるファイナンス・事業リスクを学ぶ」をテーマに下記日程で行います。

【日時】平成29年2月7日(火)18時～21時

【場所】なのはなプラザ3階 大会議室

【受講料】無料 ※テキスト代のみ3,000円

【問合せ】一関市民パワー発案所事業化検討地域協議会

【電話】090-6222-8634(菅原)

一関

馬の堆肥さしあげます

畑の土づくりに適しているとされる馬の堆肥を家庭菜園等で使ってみませんか。おがくず堆肥なので、匂いも少なく、扱いも容易です。牧場まで取りに来てくださる方には無料でさしあげています(市内であれば2トトラック1台5千円で運搬の対応可)。

【場所】パカボクラブ(佐々木牧場)

(中里字大平山23-76)

※「山桜桃の湯」さん近く

【問合せ】0191-48-4461／

080-1841-1800(佐々木)

花泉

可愛い園芸ははじめませんか？ テラリウム体験

ビンの中に好きな多肉植物などの観葉植物を入れてオリジナルの小さな庭をつくる「テラリウム」体験を随時開催しています。子どもから大人まで、園芸初心者の方でも簡単に楽しみながら作れます。

【場所】花と泉の公園

【料金】1,000円、1,500円の2コース

【問合せ】0191-82-4066(場所と同じ)

【その他】12月～2月まで、以下の通り入園料

がお得になります。大人：800円→200円、小

中学生：400円→100円

今月の表紙



舞川地域にある舞草(もうくさ)神社の仁王像で、浪民村出身の仏師・芦正太郎が1811年に製作したものです。1868年神仏判然令により吉祥山東城寺より聖観音像並びに仁王像を別当宅地内の大悲閣内に安置し、現在に至ります。

Q & A

あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q

規約をつくる時、記載しなければならないことは何ですか？

A

規約をつくる時、法令で定められた様式はありませんが、最低限①名称・所在地、②目的・事業、③会員、④役職・職員、⑤会議、⑥運営についての規定(財源・会計・規約の変更・解散)、⑦附則は入れるようにしましょう。

なお、定款(法人格を持つ団体の規約)の場合には、必ず記載しなければならない項目もありますが、その項目は団体の種類(NPO法人、一般社団法人など)によって異なります(元になる法律が違うため)。

